

「地域主導の エネルギーが必要だ」

東北おひさま発電株式会社 野川3号幹線小水力発電所(山形県長井市)

15kW



雪に囲まれた小水力発電所と
代表取締役社長の後藤博信さん

「東日本大震災の時はほぼ県全域が停電し、町民は見えない放射能におびえていました。しかしエネルギーの決定権を持つのは政府や電力会社。私たちにはなすすべのないことを痛感したんです」。故郷・山形県飯豊町の副町長退任後、後藤さんは東北おひさま発電(株)を立ち上げます。「発電の規模は小さい。でも、それでいい」。地方自治体の懐事情は苦しくとも、小規模の発電所が地域に多くできれば地域のなかでエネルギーを融通し合え、それまで大手電力会社へ流れていたお金が地域を巡る——後藤さんがめざすのは「地域の“自立”」でした。後藤さんたちの取り組みに触発され、農業用水路を活用した小水力発電の事業計画が、県内からいくつも出てきているとか。「この発電所には、発電量以上の価値があるんです」。後藤さんのまいた種は、いま開き始めました。